

科学研究費助成事業（特別推進研究）研究進捗評価

| | | | |
|------------------|-------------------------------|------|---------------|
| 課題番号 | 19002015 | 研究期間 | 平成19年度～平成23年度 |
| 研究課題名 | オートファジー分子機構とその多様性の解明 | | |
| 研究代表者名 (所属・職) | 大隅 良典（東京工業大学・フロンティア研究機構・特任教授） | | |

【平成22年度 研究進捗評価結果】

| 該当欄 | | 評価基準 |
|---|----|--|
| | A+ | 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| ○ | A | 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| | B | 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C | 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| （評価意見） | | |
| <p>オートファジーの新規分野を開拓し、世界をリードする極めて独創的な研究が展開されており、研究は順調かつ着実に進んでいる。</p> <p>Atgの解析を中心に、オートファジー形成の分子機構や選択的オートファジーに関して数々の重要な発見をしており、本研究分野を大きく発展させたことは高く評価できる。</p> <p>今後も当該研究分野の基礎となる重要な事実の発見を通して、研究の発展が期待できる。残りの研究期間では、オートファジーの膜形成および選択的分解に関する問題の解決、多様性の解明に踏み込んだ研究を推進して、オートファジーの全容解明を目指してほしい。</p> | | |

【平成24年度 検証結果】

| | |
|------|---|
| 検証結果 | オートファジーの機構の全容の理解に向けて、着実な展開が見られる。個々の研究成果に派手さはないが、オートファゴソーム形成過程での Atg 5 者複合体の解析や、種々の Atg タンパク質の立体構造の解明など、必要な研究は推し進めるという研究代表者の方針が貫徹していて、その意味で高く評価できる。オートファジーの膜形成の分子機構の全体像解明に向けて着々と基盤が築かれていることが見て取れ、順調な研究の進展と評価できる。 |
| A | |